

## 分類名[病害虫]

# 5 ダイズサヤタマバエの第Ⅱ回世代からの被害量予測

農業センター

### 1) 取り上げた理由

ダイズの主要子実害虫であるダイズサヤタマバエの被害量を普通播ダイズが開花する以前に、その前世代が加害する被害量から予測することが可能となったので、参考資料とする。

### 2) 参考資料

(1) 本虫の年間世代数は4回である。有効積算温量(松井氏)から推定すると第Ⅰ,Ⅱ回世代の羽化盛期は6月6半旬,7月6半旬,第Ⅲ,第Ⅳ回世代の羽化盛期は8月5半旬,9月5半旬と推定される(図-1)。

(2) 普通播ダイズを加害する世代の前世代(第Ⅱ回世代)成虫が産卵する盛期は7月6半旬となる。8月2半旬以降に開花する普通播ダイズの被害は第Ⅲ回世代の羽化盛期に近い晩生品種ほど大きい(図-2)。

(3) 8月上旬までにダイズサヤタマバエの発生量予測が可能である。第Ⅱ回世代が加害する7月4~5半旬開花のダイズの被害率(X)と第Ⅲ回世代が加害する晩生の普通播ダイズ(Y)の被害率の間には次の関係が認められる(図-3)。

$$Y=11.09 X-1.82^{**}$$

### 3) 対象地域等

県下一円

### 4) 特に留意すべき事項

(1) 前世代から普通播ダイズでの加害世代の発生量を予測するには、開花期が第Ⅱ回世代の羽化盛期(7月下旬)より前になる早生ダイズ(5月中旬播:トモカ等),枝豆品種(5月下旬播:サボロミドリ,アホミドリ等)で被害率を調査する。

(2) 普通播ダイズと同一な品種を用いて開花期を7月中旬まで早める場合、播種日を1カ月程度早め、6月下旬から3週間程度の短日処理(8L16D)が必要である。

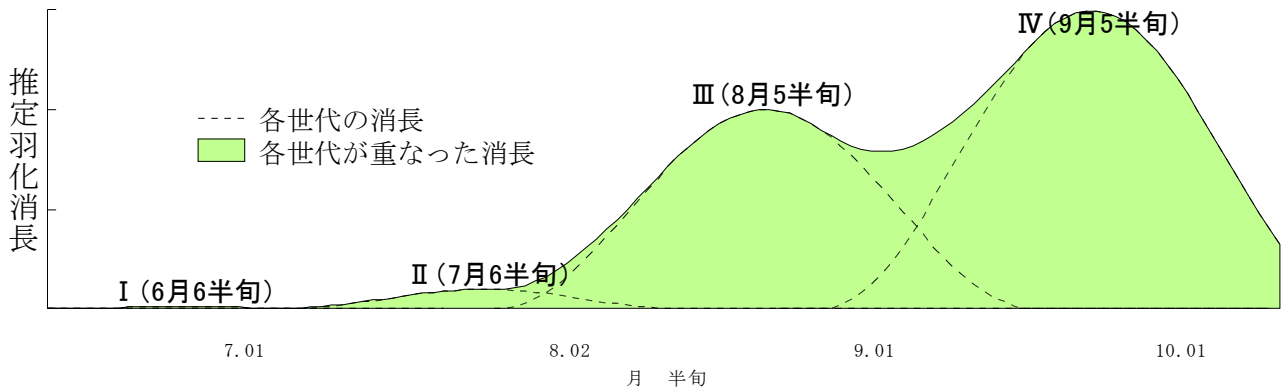
(3) 被害の年次間差は大きく、本関係式を利用することにより第Ⅱ回世代の被害発生状況から発生量の少ない年の防除を軽減できる(図-1,3)。

### 5) 背景となった主な試験研究

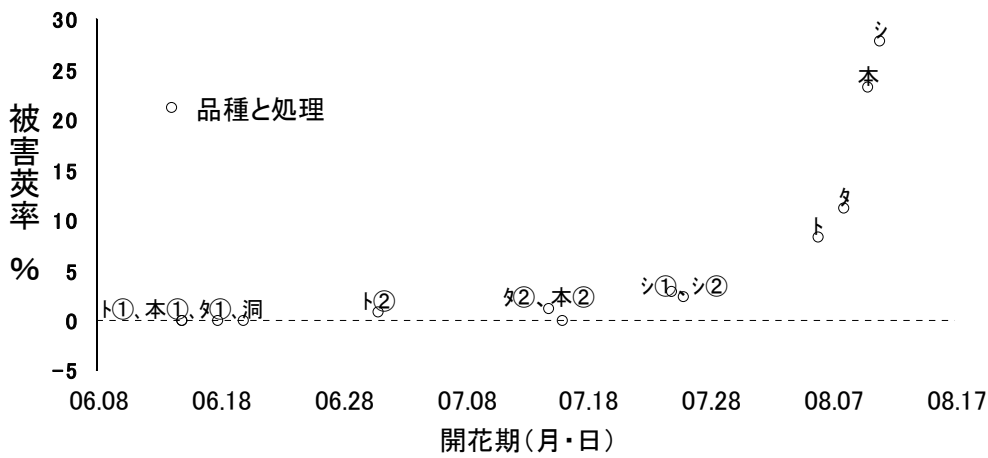
(1) 研究期間及び担当部科名 農業センター作物保護部病害虫発生予察科

(2) 研究課題名及び研究期間 ダイズサヤタマバエの発生活長・昭和63年~平成8年

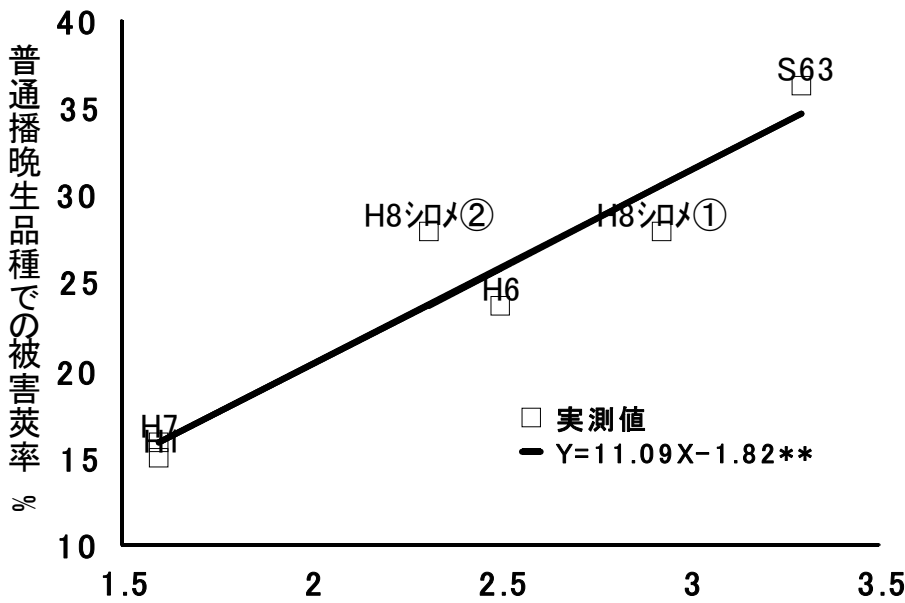
(3) 参考データ



第1図 ダイズサヤマバエの発生消長の模式図(H7, H8)  
 発育零点=10.4℃、有効積算温量=329日度、高温切除点=27.5℃



第2図 開花期と被害率の関係  
 洞: 洞爺、本: 本吉5号、ト: トモユカ、知: 知レイ、シ: シヤキシロメ  
 短日処理 ①: 5月21日から2週間、②: 6月3日から3週間



前世代による被害率 % (7月6~8月1半旬)  
**第3図 被害量予測式**  
 (7月4~5半旬に開花するダイズでの被害率から予測)  
 短日処理 図-2の①、②と同様

[発表論文等]

ダイズサヤマバエの発生  
 の年次変動と分布パターン、  
 北日本病虫研報47:  
 165,

ダイズサヤマバエの発生  
 と発生量予測、植物防疫  
 51: 560-564